

子供の不安をやわらげるためにできること

【子供への声のかけ方について…】



習志野市総合教育センター

子供の様々な変化に不安を抱える保護者の皆様へ…

夏休みが始まりました。今年は、昨年より長い夏休みとなります。夏休みにしかできない経験ができると思います。

しかし、家で過ごす時間が長くなると「なんで宿題やっていないの?」「だって夏休み始まったばかりだよ。みんなやっていないよ。」というような会話をすることはないでしょうか。今回は子供への声のかけ方について考えてみます。

◇言い訳を誘導してしまう言葉「なんで…?」

「なんで?」は一般的に原因を探り、これからこのようなことが起きないようにするために使われる言葉です。しかし、「なんで宿題やっていないの?」の言葉を発する時に、「朝からずっとテレビばかり見ていて…。なんで宿題やっていないの?」と言葉に出さなくてもこのような感情が入ってはいないでしょうか。

子供は敏感で「なんで…?」と問われると「自分が責められている」と感じてしまい、「自分は悪くない」ということを伝えたいがために「だって…」と、言い訳をしてしまうそうです。大人も同じような場面はないでしょうか。仕事で疲れて帰ってきたのに家族から「なんで、晩御飯まだできてないの?」と言われたら「だって…」と言い訳をしたくなるのではないのでしょうか。では、どのように声をかければよいのでしょうか。

◇子供への声のかけ方 キーワードは「やさしく」

声の調子や大きさを「やさしく声をかけること」も一つですが、子供が自分の言い分を言えるようにするとよいと思います。

「なんで宿題やっていないの?」「宿題やったの?」のような一方的な声かけではなく、

親「今日は宿題いつから始めるの?」

子「今、おもしろいテレビを見ているから、終わったら始めるよ。」

のように、子供が自分の言い分を伝えられるような「やさしさが感じられる声かけ」が大切だと思います。

また、その前にできることとして、計画を立てるのも一つです。そして親が考えた計画ではなく、自分で考えた計画の方が、子供はやる気が出るはずです。学年によっては、一緒に計画を立ててもよいでしょう。



お子様の心の変化や登校渋り等でお困りの時は、総合教育センター教育相談を御利用ください。
総合教育センター 教育相談(047-475-8341) 青少年テレホン相談(047-475-7867)
特別支援教育相談(047-476-0210) 適応指導教室「フレンドあいあい」(047-471-123)